

様式第 2 号

視察研修先	栃木県大田原市	氏名	古沢 清志
視察研修項目	旧蜂巢小学校の利活用について(多機能型障害福祉サービス事業所)		
【概 要】 大田原市は東京から150km圏であり、栃木県北東部に位置しております。恵まれた水を利用した広大な水田が開け、豊かな自然環境と調和のとれた田園工業都市をめざしており、行政、文化、教育、そして様々な産業といった、あらゆる分野において、調和のとれた街を目指している、活気ある街です。 【旧蜂巢小学校について】 ①趣のある木造校舎、広がる田園風景の魅力にひかれた。 ②一般の方が障がい者への壁を無くしていける場所になればと思った。 【主な質疑】 問 廃校を「解体」ではなく、「民間事業者の利活用」とした経緯は。 答 最初に地元に希望を確認し希望があれば地元優先とし、希望がなければ他の利活用を検討することとしており、その中で7月から約2ヵ月間公募したところヒカリノカフェ蜂巢珈琲店の運営会社であるエルム福祉会が利用したいという募集があったことから、公募型プロポーザルによる審査会を実施し候補者に決定した。 問 プロポーザル審査において、重視した点は。 答 審査において重視した点は、単なる営利目的のカフェではなく、地域との連携が図られるかどうかという点を重視した。 問 契約形態はどのようにしたか。 答 公有財産使用貸借契約書 令和6年4月1日から10年間 賃料は無償 建物の維持管理については事業者負担、大規模修繕等が必要になった場合は契約書には記載せず、両者協議の上定める。 問 事業者に対して今後期待されることは。 答 障がい者の就労の場を確保するとともに、工賃所得の引上げが実現できれば、障がい者の自立支援の推進につながる。例えば地元野菜の販売等により地元住民との交流を通じて、地域の活性化に資する。			

【感想】

週末でもないのに大勢の利用者がおりました。レストランもあり食事の食器も、昔、学校の給食で使ったアルミの器で、懐かしくいただきました。校舎も木造で本当に昔に帰った思いでした。旧校舎の利活用も大変参考になりました。本市におきましても参考にさせていただきます。ありがとうございました。

様式第 2 号

視察研修先	栃木県那須町	氏名	古沢清志
視察研修項目	旧朝日小学校の利活用について(那須まちづくり広場)		

【概 要】

北西部に那須連山の主峰、茶臼岳がそびえ、今なお煙を吐き続けている。
その南斜面には、1390年の歴史を持つ温泉があり、日光国立公園「那須温泉郷」や
全国 3 ヲ所しかない御用邸の一つ「那須御用邸」もあり、観光の名所となっている。
関係人口も多く、連日多くの人で賑わっている。

【主な質疑】

問 廃校を「解体」ではなく、「民間事業者の利活用」とした経緯及び利活用すると決
まってから事業が開始するまでに苦労した点は。

答

①「那須町小中学校適正配置計画」において、学校跡地については統廃合によって
生じる建物や土地は貴重な財産であるため、地域住民のニーズ等を踏まえ、幅広い
視点で有効活用を検討した。

②旧朝日小学校については、学校や公共施設としての利用予定がないことから、民
間企業への貸付となった。また、利活用決定から事業開始までについて、1 度目の
公募で利用者が決まらなかったことや、利用者決定後の財産処分の手続きに苦労し
たことだった。

問 プロポーザル等により審査した際に当該事業を評価した点は。

答 審査は、地元住民代表の 2 人を含めた10人の委員が、法人等の安定性、事業の有
効性、事業の実現性・継続性、地域への貢献度、地域との調和性といった観点か
ら審査を行った。

問 開設から一定期間経過していますが、現時点の評価は。
(行政として当初期待していた役割を担っているかなど)

答 サービス付き高齢者向け住宅の運営はもとより、一人暮らし高齢者等への週 2 回
の宅配サービスによる高齢者支援やデイサービス事業など、介護重度化予防も担
っていただいております。高齢者の移住・定住の促進を軸にしつつも多世代交流、
地域活性化、健康増進、文化活動など、多岐にわたる取り組みを通じて、誰もが
生きがいを持って暮らせる「生涯学習のまち」の実現に寄与していると認識して
おります。

【感 想】

お忙しい中、視察を受け入れていただきありがとうございました。寒河江市にとりましても、今後学校の統廃合が進み廃校も出てきます。その廃校も無駄にしないよう有意義に活用してまいりたいと思います。その先進地に行って学ぶことは非常に勉強になりました。ありがとうございました。

様式第2号

視察研修先	宮城県白石市	氏名	古沢清志
視察研修項目	学びの多様化学校(白石きぼう学園)について		
【概 要】 宮城県の南端に位置する城下町です。西には蔵王連峰の豊かな自然、東には阿武隈山系が広がり、市街地には水路が巡る歴史情緒あふれる街並みが残っています。伝統的な城下町としての歴史を持つ一方で、白石城の復元や、こけしなどの伝統工芸、温泉、スキー場といった観光資源、そして「白石温麺（しろいしうーめん）などの特産品が豊富です。 【事業目的】 白石きぼう学園の開校は、学びの場の選択肢の一つとして新たな学校を設置し、児童生徒の「学力の保証・社会的自立」に結び付けていくことを目指している。特別の教育課程を編成し、不登校児童生徒の実態に配慮した個に応じた学びを実施するものです。 【効果（保護者）】 ・子どもを入れることにより仕事を持てるようになった。 ・大変さも知り、ボランティアもできるようになった。 ・学校の良さも広く伝えることができる。 ・教育委員会が深く関わって指導してくれる。（先生に対して） 【費用について】 ・教材は市で負担 ・給食費は自己負担 ・通学費は遠い場所の方は、一定程度自己負担 【教育長から】 ・宮城県には現在3校存在している。 ・上山市のきらり学園とも連携している。 ・教育改革（学力向上）誰一人残さない教育を目指す。 ・周知するにはマスコミを有効に活用するとよい。 【課題】 ・1学年7名が希望であるが、現在約10名が通学、どんどん増えている。 ・誰もが不登校になる可能性がある。			

・ふるさと納税に力を入れて、そのお金を「白石きぼう学園」に寄付していただきたい。

【感想】

白石きぼう学園は校舎もきれいで、生徒達は校則のしほりもなく、制服もなく、のびのびと学校生活を送っているようでした。学校生活は学びだけでなく、友人を作ったり、コミュニケーションを育む場所だったり、これから頑張ってください。